

刑 事 法

・解答上の注意

1. 問題文は1枚、解答用紙は2枚（各問について1枚）、下書き用紙は1枚です。
2. 解答用紙には、一橋大学の受験番号を記入し、氏名は記入しないでください。
3. 第1問、第2問とも解答してください。
4. 解答用紙は、第1問用と、第2問用とが異なります。それぞれ正しい用紙に解答してください。
5. 解答は横書きにして、1問につき1枚の解答用紙に収めてください。解答用紙の追加、交換はしません。
6. 問題の内容についての質問には、応じません。
7. 貸与した六法に、書き込みをしてはいけません。
8. 試験終了後、問題文と下書き用紙は、持ち帰ってください。

第1問

次の事例における甲・乙の罪責を論じなさい。

暴力団組員甲は、かねがね21歳のA女と性的な関係をもちたいと思っており、Aを拉致して自宅に連れて来ることを計画するに至った。そのための具体的な方法を思案していた甲は、同じ組に所属する乙にこの計画を打ち明けた。それを聞いた乙は、自身はAに関心はなかったが、この際弟分である甲が思いを遂げられるように手伝ってやろうと考え、甲に対し、「麻酔薬を用意してやるから、それを使えば容易に拉致できるだろう。」と援助を申し出た上、数日後、揮発性の麻酔薬の瓶を入手して甲に手渡した。

某日夜、甲は、計画を実行に移し、Aを拉致するため、乙からもらった薬品をしみこませた布をポケットに入れ、Aがいつも帰宅のため通行する道の途中で、帰宅時間をみはからってひとりでAを待っていた。やがてその場をAが通りかかった際、甲は暗がりから飛び出して、麻酔薬をしみこませた布ですばやくAの口を覆った。しかし、当日はたまたまAの帰宅時間が通常より1時間ほど遅かったため、しみこませていた薬品は蒸発していて麻酔の効果は全くなかった。Aは、とっさに甲の下腹部あたりを蹴り上げ、甲がひるんだすきに現場から逃走し、無事であった。

第2問

犯罪構成要件の刑事手続における働きに関して、以下の問いに答えなさい。

- 1) 刑法が定める犯罪の構成要件には、どのような種類の要素が含まれるか、説明しなさい。
- 2) 刑事手続上、犯罪構成要件は、どのような場面で明確に意識されるか。構成要件に含まれる事実とそれ以外的事実とを区別することに、どのような意味があるか。捜査、公訴の提起、立証、判決の各段階からそれぞれ例を示しながら論じなさい。